

2015年6月29日
株式会社日本政策金融公庫
中小企業事業本部
保険企画部

信用保証に関する金融機関アンケート調査結果の概要 (2015年度上期調査)

定例調査

- 【概況】**・中小企業向け貸出D.I.は、引き続きプラスで推移
・信用保証付貸出D.I.は、引き続きマイナスで推移
・条件変更D.I.及び代位弁済D.I.は、引き続きマイナスで推移

【中小企業向け貸出】

○中小企業向け貸出D.I.は3.8と5期連続でプラス。
次期見込みは5.0とプラス幅がやや拡大。

【信用保証付貸出】

○信用保証付貸出D.I.は▲7.8と8期連続でマイナス。
次期見込みは▲6.8とマイナス幅がやや縮小。

【信用保証付貸出における条件変更】

○条件変更D.I.は▲7.4と6期連続でマイナス。
次期見込みは▲6.2とマイナス幅がやや縮小。

【金融機関から信用保証協会への代位弁済請求】

○代位弁済D.I.は▲7.8と4期連続でマイナス。
次期見込みは▲9.4とマイナス幅がやや拡大。

特別調査

～金融機関の貸出スタンスの変化について～

- ・金利競争の激化等により、信用保証付貸出よりプロパー貸出を重視する傾向

【金融機関の貸出スタンスの変化(2012年度下期以前との比較)】

○「プロパー貸出を重視」が42.3%と「信用保証付貸出を重視」の9.4%を大幅に上回っている。

【プロパー貸出を重視する理由】

○「金利競争の激化」が最多、次いで「新規先(他機関の取引先)の開拓」、「保証料の割高感」が続く。

【プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴】

○「定性情報を再評価した先」が最多、次いで「成長分野に該当する先」。
一方で、「担保余力が乏しい先」及び「業歴が浅い先」は少数。

【今後、積極的に利用を見込んでいる信用保証制度】

○「起業・創業に関する保証制度」や「小規模企業向けの保証制度」のニーズが高い。

＜お問合わせ先＞

株式会社日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 保険分析グループ (担当：宮本、高松)

TEL : 03-3270-2384 FAX : 03-3242-0033 E-mail : cnhbunseki@jfc.go.jp

信用保証に関する金融機関アンケート調査結果の概要 (2015年度上期調査)

<調査の要領>

調査時点	2015年4月
調査方法	郵送による記名式アンケート調査
調査対象	272の金融機関（都市銀行5、地方銀行64、第二地方銀行41、信用金庫137、信用組合25） （信用金庫および信用組合については各々一定額以上の保証債務残高を有する金融機関）
回答数	251の金融機関（都市銀行5、地方銀行55、第二地方銀行38、信用金庫129、信用組合24）
回答率	92.3%

<特別調査> 金融機関の貸出スタンスの変化について、調査を実施。

(注) D. I. = (「増加」と回答した金融機関の割合 + 0.5 × 「やや増加」と回答した金融機関の割合) - (「減少」と回答した金融機関の割合 + 0.5 × 「やや減少」と回答した金融機関の割合)。前年同期比での増減見通し。

(注) 地域別集計は、都市銀行の回答は含まず、以下の都道府県に本店を構える金融機関の回答を集計したもの。

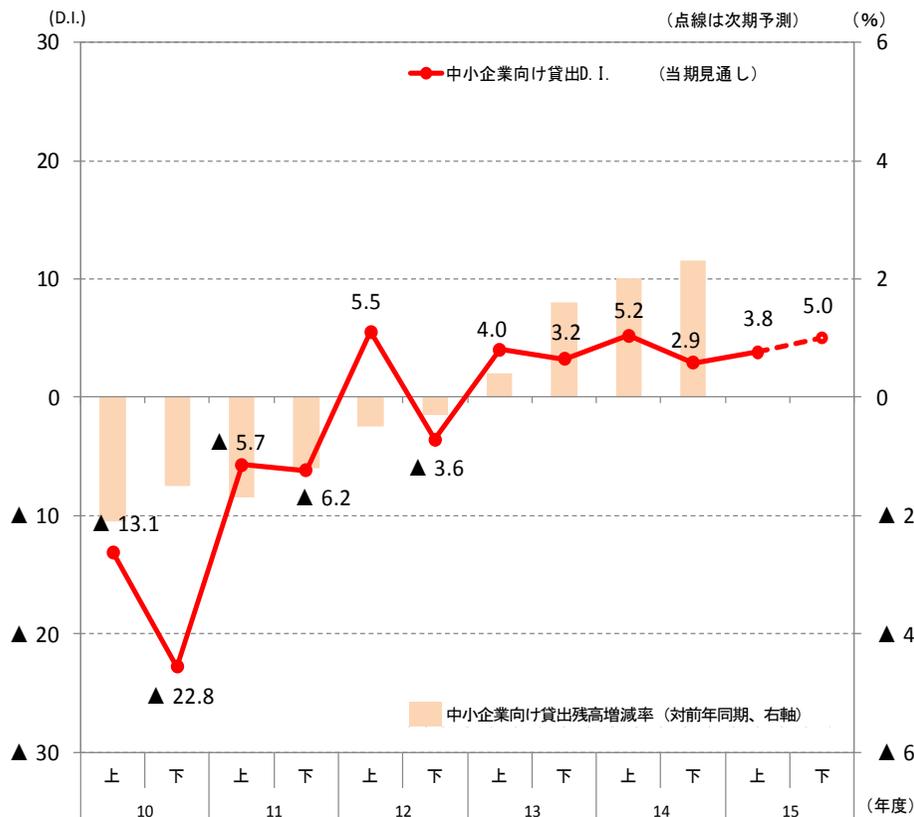
【 】内の数字は、回答機関数/調査対象機関数。

東北・北海道	【33/35】	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	【85/89】	新潟、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海・北陸	【49/53】	静岡、愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井
近畿	【34/37】	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	【17/19】	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	【8/8】	香川、徳島、高知、愛媛
九州	【25/31】	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

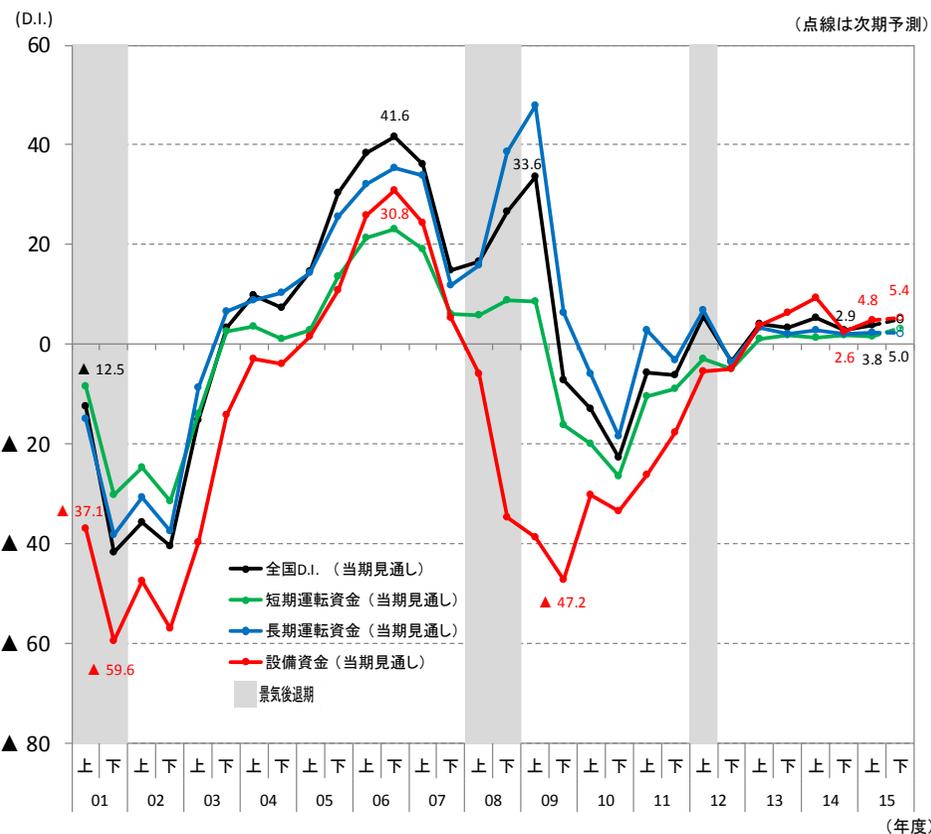
1. 中小企業向け貸出の動向について

- ◆ 中小企業向け貸出D.I.は、2013年度上期以降、5期連続でプラス。次期はプラス幅がやや拡大する見込み。
- ◆ 資金使途別にみると、設備資金のプラス幅がやや拡大。次期は横ばいの見込み。

中小企業向け貸出D.I.の推移



中小企業向け貸出D.I.(資金使途別)の推移



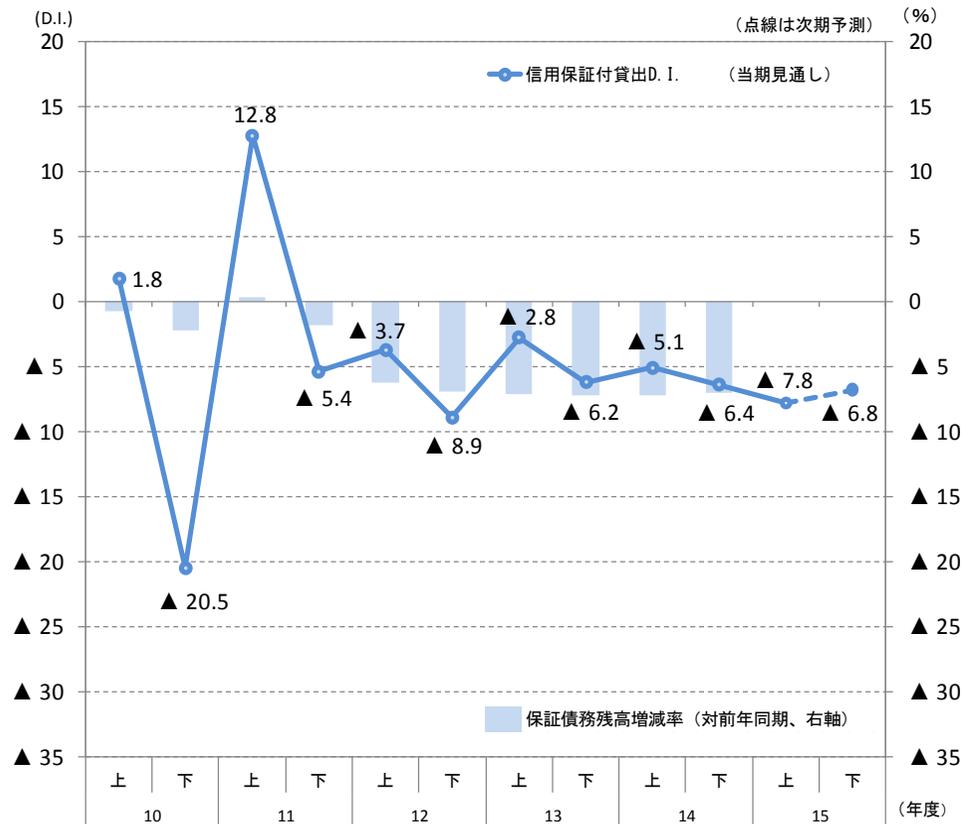
2007年度下期以前の調査については、サンプリング方法が現在と異なるため、時系列の比較には留意が必要である。

2012年度上期以前の調査に係るD.I.の算出については、「増加」と回答した金融機関の割合から「減少」と回答した金融機関の割合を引いて算出しているため、時系列の比較には留意が必要である。

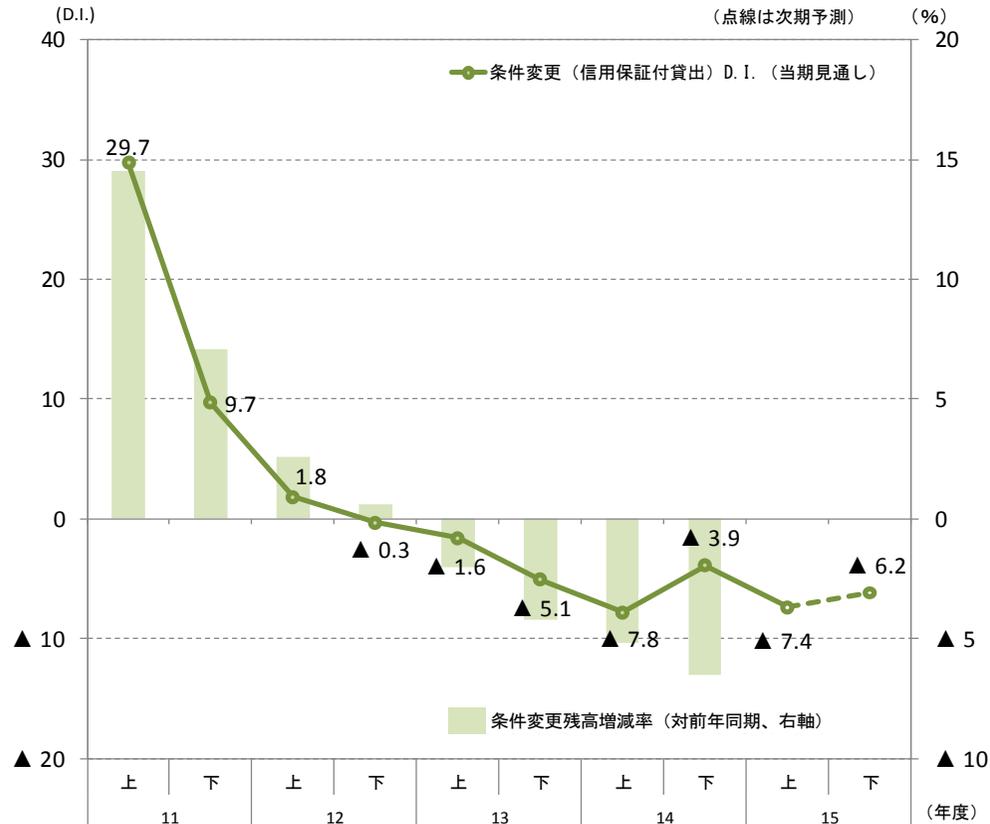
2. 信用保証付貸出の動向について

- ◆ 信用保証付貸出D.I.は、2011年度下期以降、8期連続でマイナス。次期はマイナス幅がやや縮小の見込み。
- ◆ 信用保証付貸出における条件変更D.I.は、2012年度下期以降、6期連続でマイナス。次期はマイナス幅がやや縮小の見込み。

信用保証付貸出D.I.の推移



条件変更(信用保証付貸出)D.I.の推移

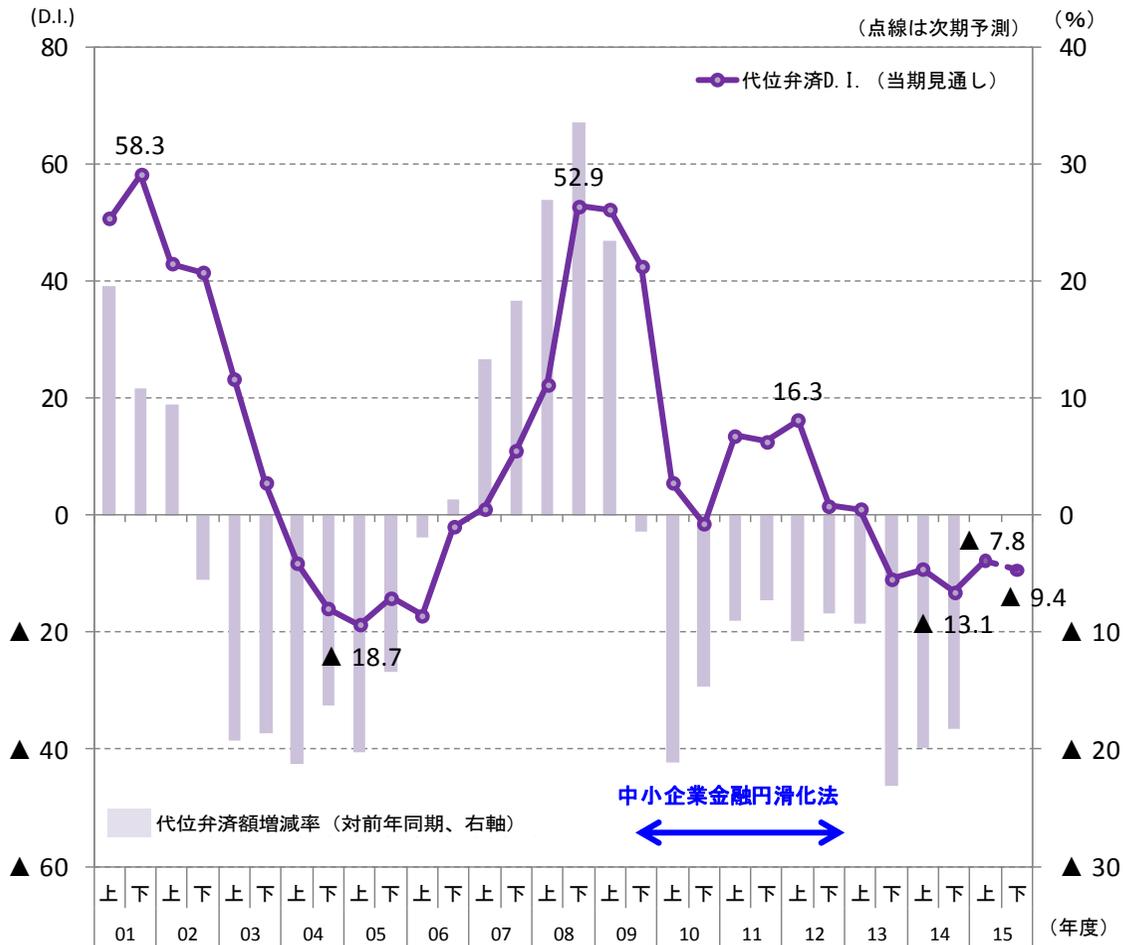


2012年度上期以前の調査に係るD.I.の算出については、「増加」と回答した金融機関の割合から「減少」と回答した金融機関の割合を引いて算出しているため、時系列の比較には留意が必要である。

2. 信用保証付貸出の動向について(つづき)

◆ 金融機関から信用保証協会への代位弁済請求D.I.は、2013年度下期以降、4期連続でマイナス。次期はマイナス幅がやや拡大の見込み。

代位弁済D.I.の推移



2007年度下期以前の調査については、サンプリング方法が現在と異なるため、時系列の比較には留意が必要である。

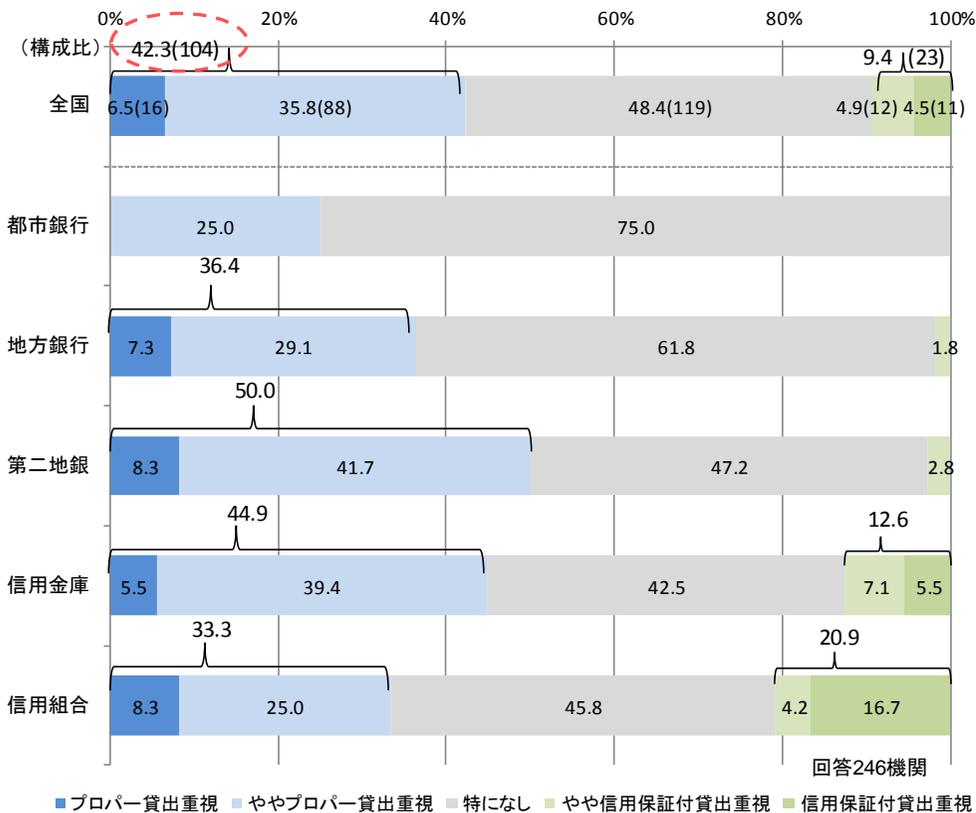
2012年度上期以前の調査に係るD.I.の算出については、「増加」と回答した金融機関の割合から「減少」と回答した金融機関の割合を引いて算出しているため、時系列の比較には留意が必要である。

◆金融機関の貸出スタンスの変化(2012年度下期以前との比較)

・2012年度下期以前と比べて、プロパー貸出を重視(「重視」と「やや重視」の合計)するようになったと回答した金融機関は42.3%となっており、信用保証付貸出を重視するようになったと回答した金融機関の9.4%を大幅に上回っている。

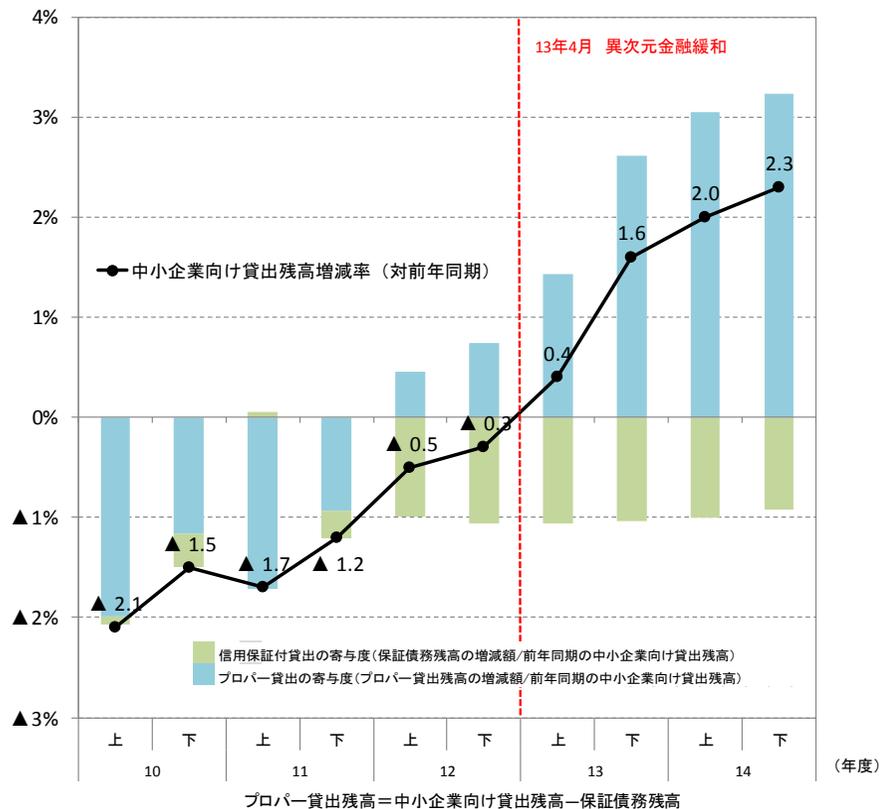
・全ての金融機関業態で、信用保証付貸出よりもプロパー貸出を重視する傾向となっているが、信用金庫及び信用組合では他業態に比べて信用保証付貸出を重視するようになったと回答した金融機関の構成比が高い。

金融機関の貸出スタンスの変化(2012年度下期以前との比較)



()内は回答機関数

(参考)プロパー貸出残高と信用保証付貸出残高の推移

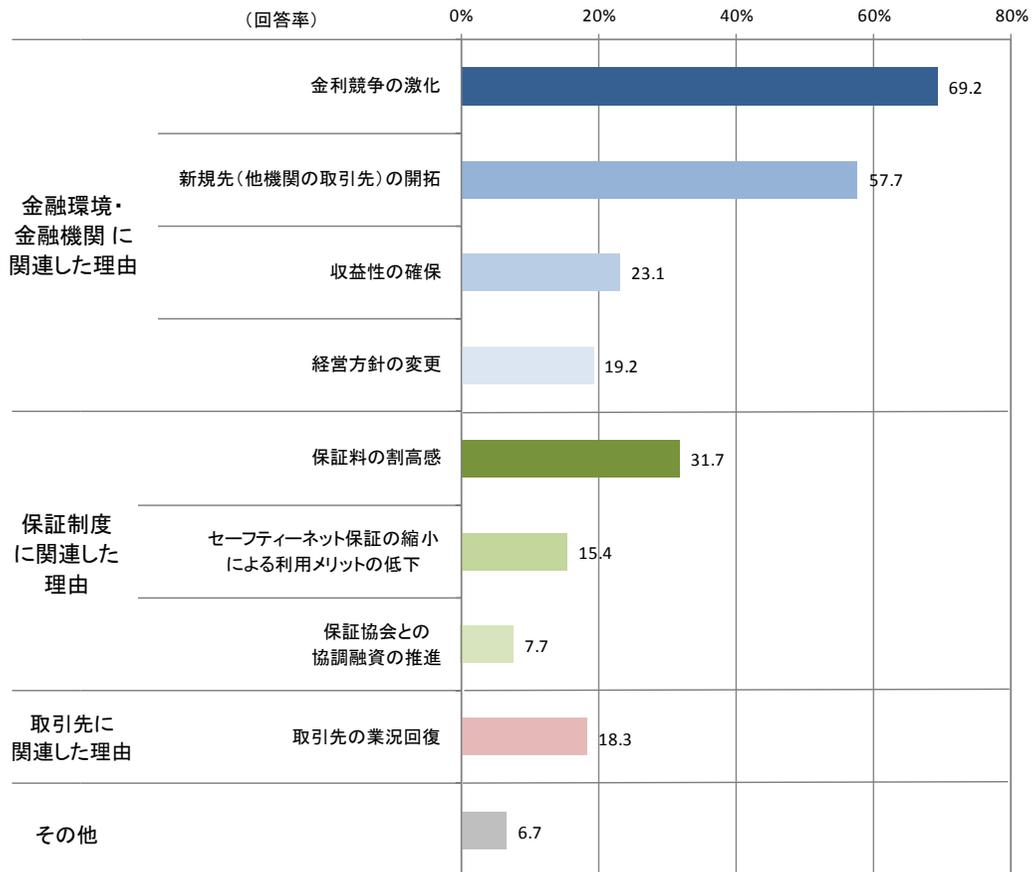


◆プロパー貸出を重視する理由

- ・「金利競争の激化」が最多、次いで「新規先(他機関の取引先)の開拓」、「保証料の割高感」の順となっている。
- ・都市銀行を除く全ての金融機関業態で、「金利競争の激化」及び「新規先(他機関の取引先)の開拓」が上位の理由となっており、特に信用金庫及び信用組合の回答割合が高い。また、地方銀行では他業態に比べて「保証料の割高感」の回答割合が高い。

プロパー貸出を重視する理由

(当該回答は、金融機関の貸出スタンスについて、プロパー貸出を「重視」及び「やや重視」と回答した金融機関を対象)



回答104機関

回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。複数回答のため、合計100%を超える。

金融機関業態別の上位3項目

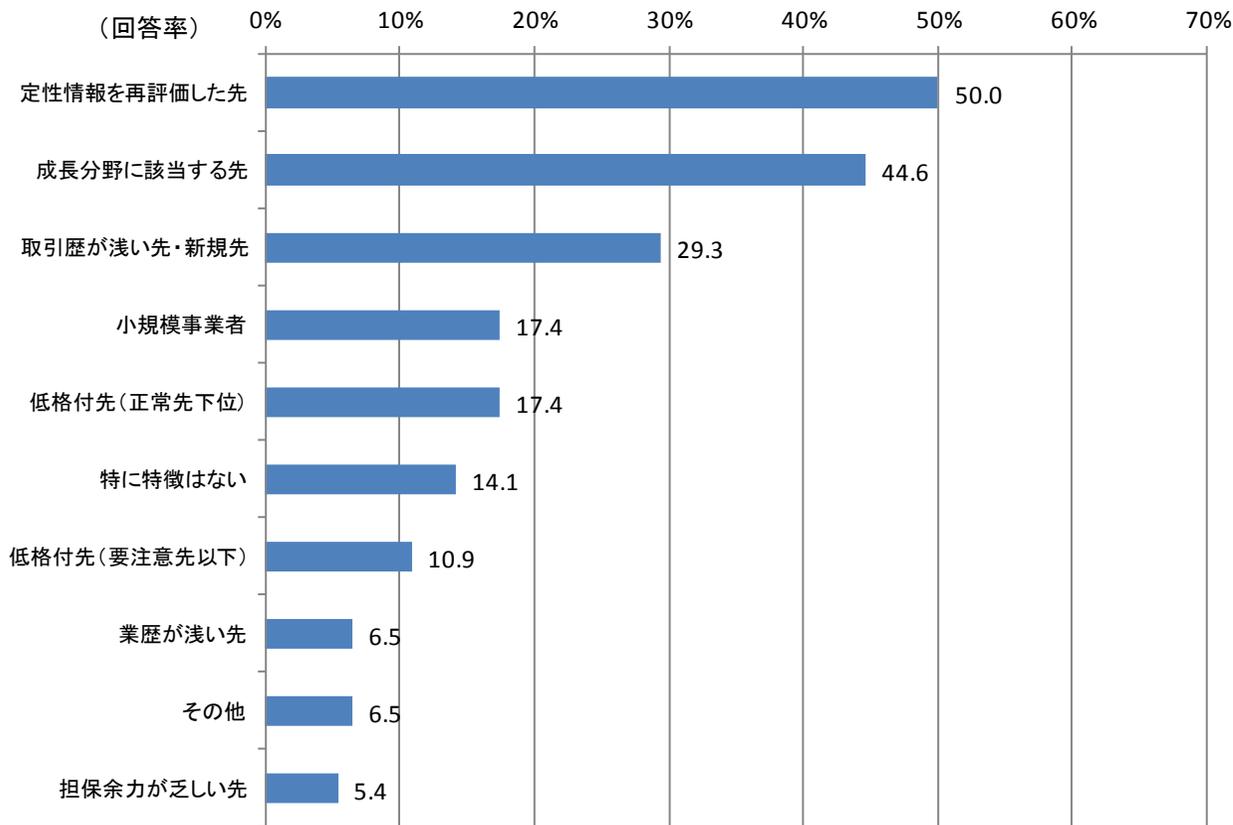
	1位	2位	3位
全国	金利競争の激化 (69.2%)	新規先(他機関の取引先)の開拓 (57.7%)	保証料の割高感 (31.7%)
都市銀行	セーフティーネット保証の縮小による利用メリットの低下 (100.0%)	—	—
地方銀行	金利競争の激化 (55.0%) 保証料の割高感 (55.0%)	—	新規先(他機関の取引先)の開拓 (45.0%)
第二地銀	金利競争の激化 (72.2%)	新規先(他機関の取引先)の開拓 (50.0%)	取引先の業況回復 (27.8%)
信用金庫	金利競争の激化 (73.7%)	新規先(他機関の取引先)の開拓 (61.4%)	保証料の割高感 (26.3%)
信用組合	新規先(他機関の取引先)の開拓 (87.5%)	金利競争の激化 (75.0%)	収益性の確保 (37.5%) 保証料の割高感 (37.5%)

()内の数値は回答率

◆プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴

- ・「定性情報(経営手腕、技術力、販売力及び事業将来性等)を再評価した先」が最多、次いで「成長分野(環境・エネルギー、医療・介護等)に該当する先」、「取引歴が浅い先・新規先」と続いている。一方で、「担保余力が乏しい先」や「業歴が浅い先」は少数にとどまっている。
- ・地方銀行及び第二地方銀行では、他業態で上位の理由となっていない低格付先(正常先下位)の回答割合が高い。

プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴



回答92機関

金融機関業態別の上位3項目

	1位	2位	3位
全国	定性情報を再評価した先 (50.0%)	成長分野に該当する先 (44.6%)	取引歴が浅い先・新規先 (29.3%)
都市銀行	特に特徴はない (100.0%)	—	—
地方銀行	定性情報を再評価した先 (52.6%)	成長分野に該当する先 (47.4%)	低格付先(正常先下位) (26.3%)
第二地銀	取引歴が浅い先・新規先 (40.0%) 成長分野に該当する先 (40.0%)	—	定性情報を再評価した先 (33.3%) 低格付先(正常先下位) (33.3%)
信用金庫	定性情報を再評価した先 (55.1%)	成長分野に該当する先 (42.9%)	取引歴が浅い先・新規先 (32.7%)
信用組合	成長分野に該当する先 (62.5%)	定性情報を再評価した先 (50.0%)	取引歴が浅い先・新規先 (37.5%)

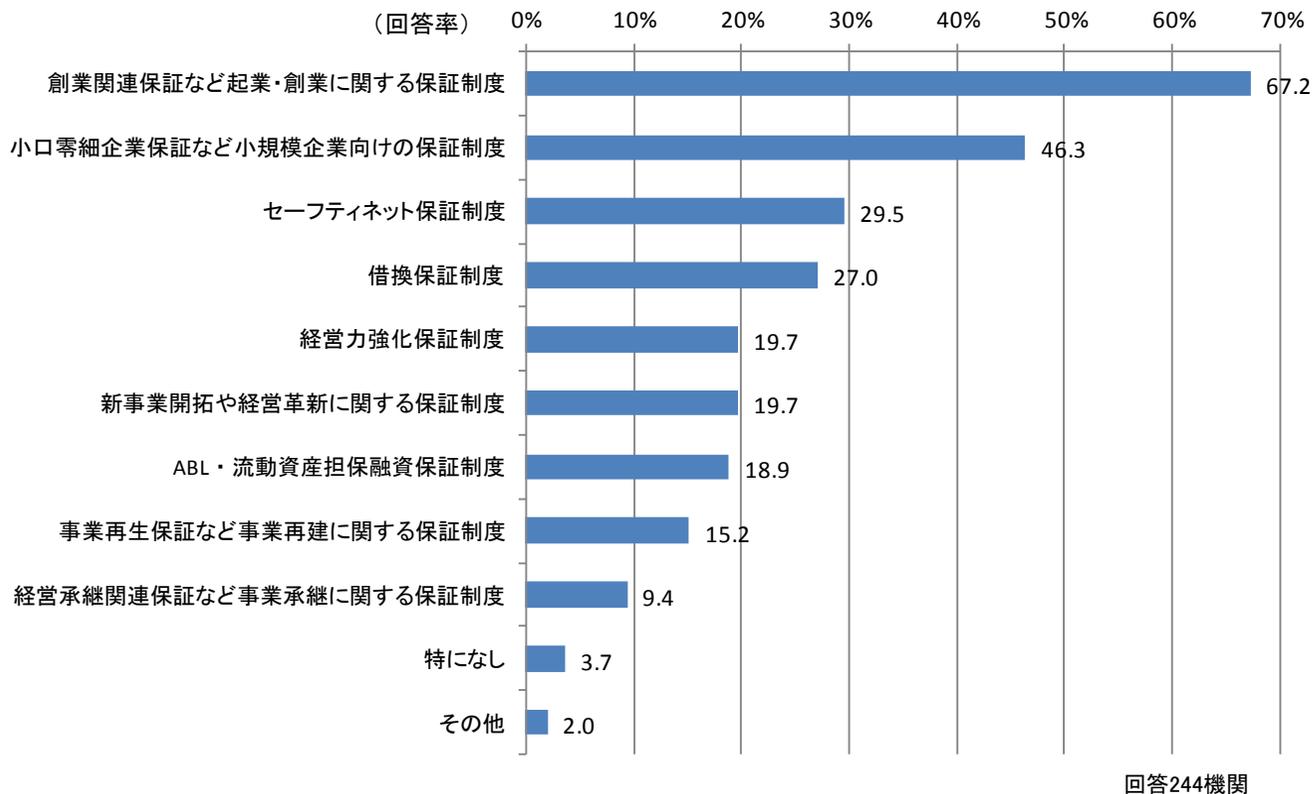
回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。複数回答のため、合計100%を超える。

()内の数値は回答率

◆今後、積極的に利用を見込んでいる信用保証制度

- ・「創業関連保証など起業・創業に関する保証制度」が最多、次いで「小口零細企業保証など小規模企業向けの保証制度」、「セーフティネット保証制度」と続いている。
- ・「プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴」で回答が少なかった「業歴が浅い先」、「小規模事業者」に関連する保証制度のニーズが高くなっている。
- ・都市銀行では他業態に比べて「セーフティネット保証制度」の回答割合が高い。

今後、積極的に利用を見込んでいる信用保証制度



金融機関業態別の上位3項目

	1位	2位	3位
全国	創業関連保証 (67.2%)	小口零細企業保証 (46.3%)	セーフティネット保証 (29.5%)
都市銀行	セーフティネット保証 (75.0%)	創業関連保証 (50.0%)	—
地方銀行	創業関連保証 (78.2%)	小口零細企業保証 (36.4%)	ABL保証 (25.5%)
第二地銀	創業関連保証 (68.6%)	ABL保証 (28.6%)	—
信用金庫	創業関連保証 (63.5%)	小口零細企業保証 (57.1%)	借換保証 (31.0%)
信用組合	創業関連保証 (62.5%)	小口零細企業保証 (45.8%)	セーフティネット保証 (37.5%)

回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。複数回答のため、合計100%を超える。

()内の数値は回答率

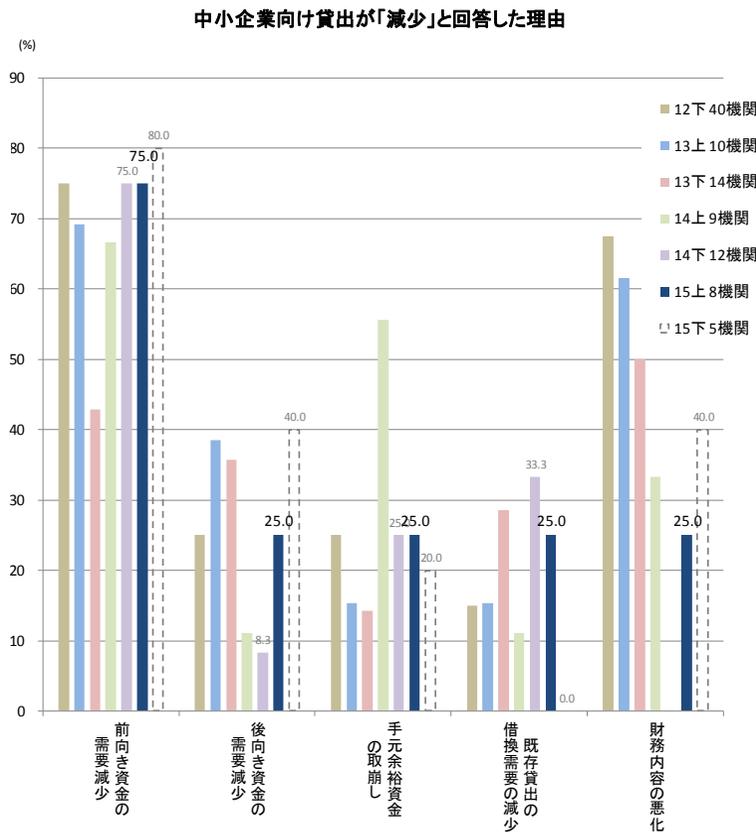
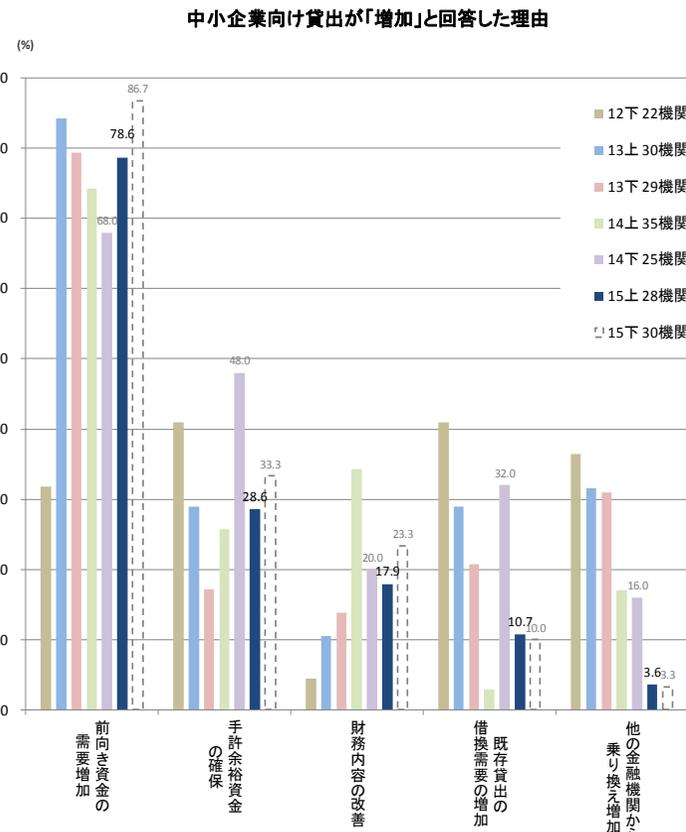
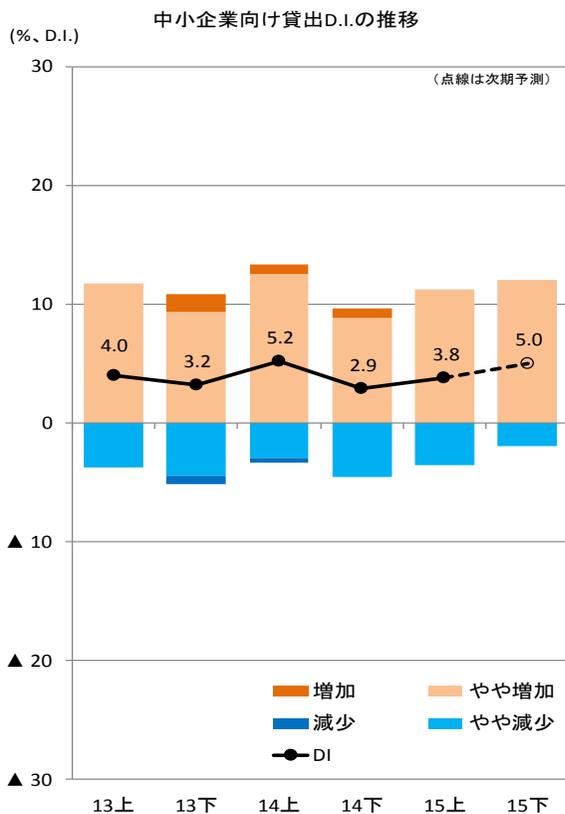
1. 中小企業向け貸出の動向について

2015年度上期における中小企業向け貸出が「増加」または「減少」と回答した金融機関に、その理由について尋ねた。

【増加理由】 ・2013年度上期以降、「前向き資金の需要増加」が5期連続で最多。一方で「手許余裕資金の確保」及び「既存貸出の借換需要の増加」は前期に比べて大幅に減少。

【減少理由】 ・「前向き資金の需要減少」が最多(回答機関数8機関のうち、6機関が回答)。

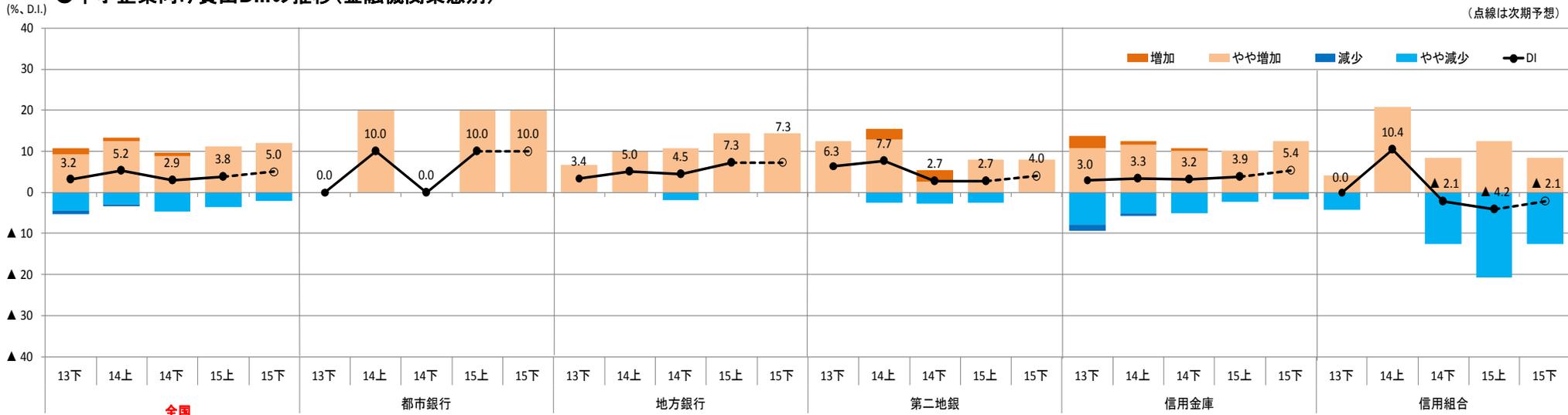
中小企業向け貸出D.I.の推移及び増減理由



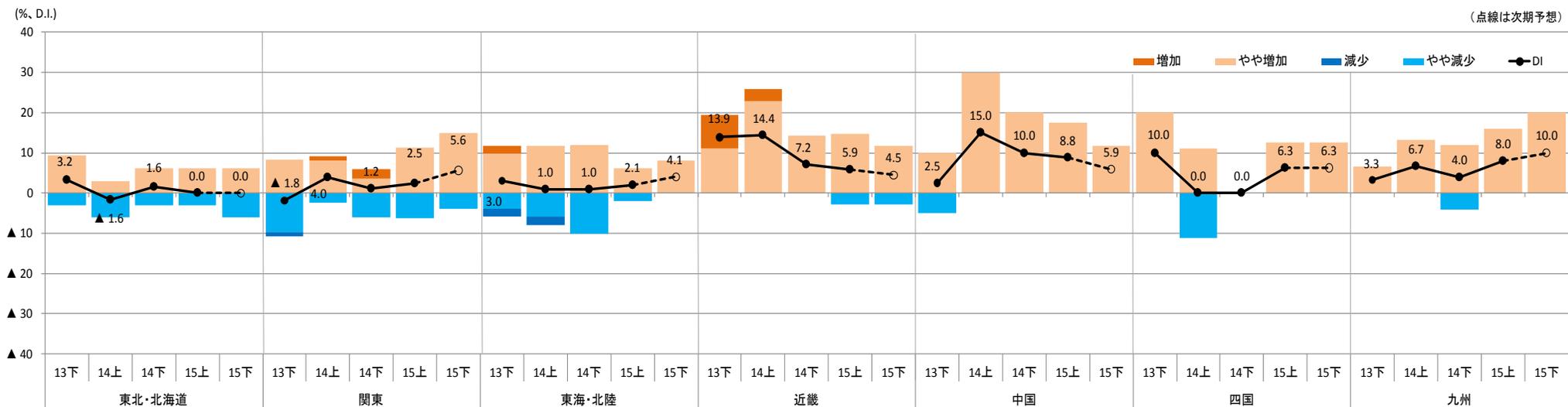
回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。

1. 中小企業向け貸出の動向について(つづき)

●中小企業向け貸出D.I.の推移(金融機関業態別)



●中小企業向け貸出D.I.の推移(地域別)



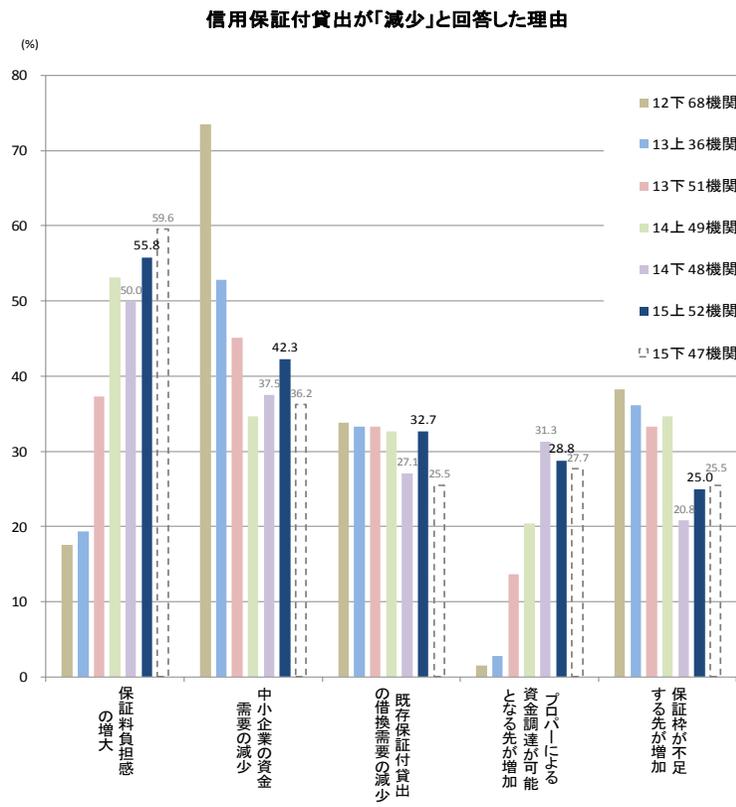
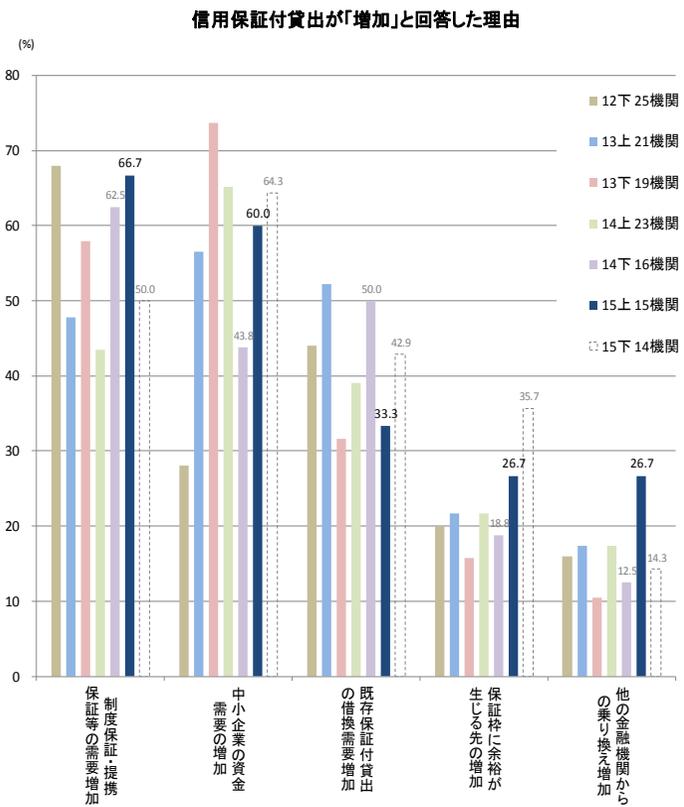
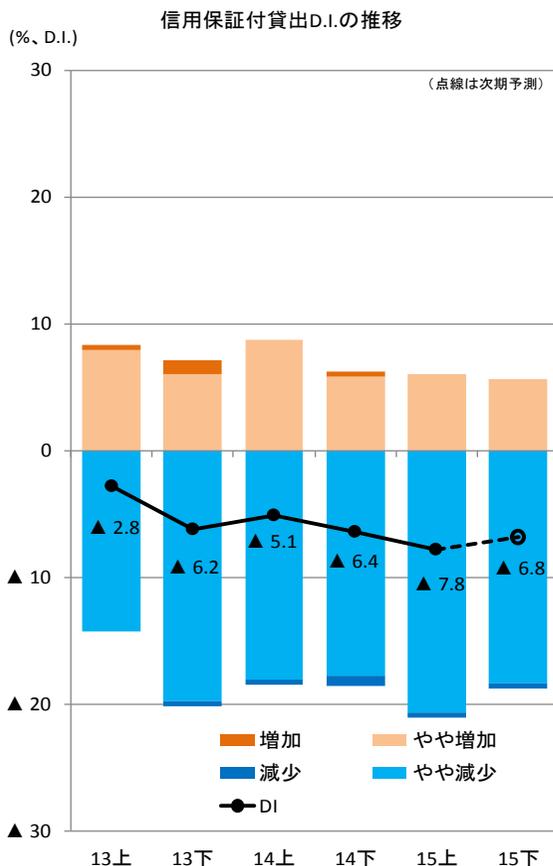
2. 信用保証付貸出の動向について

2015年度上期における信用保証付貸出が「増加」または「減少」と回答した金融機関に、その理由について尋ねた。

【増加理由】・「制度保証・提携保証等の需要増加」が最多(回答機関数15機関のうち、10機関が回答)。次いで「中小企業の資金需要の増加」が続いており、前期に比べて大幅に増加している。

【減少理由】・低金利下での保証料の割高感を反映し、2014年度上期以降、「保証料負担感の増大」が3期連続で最多。

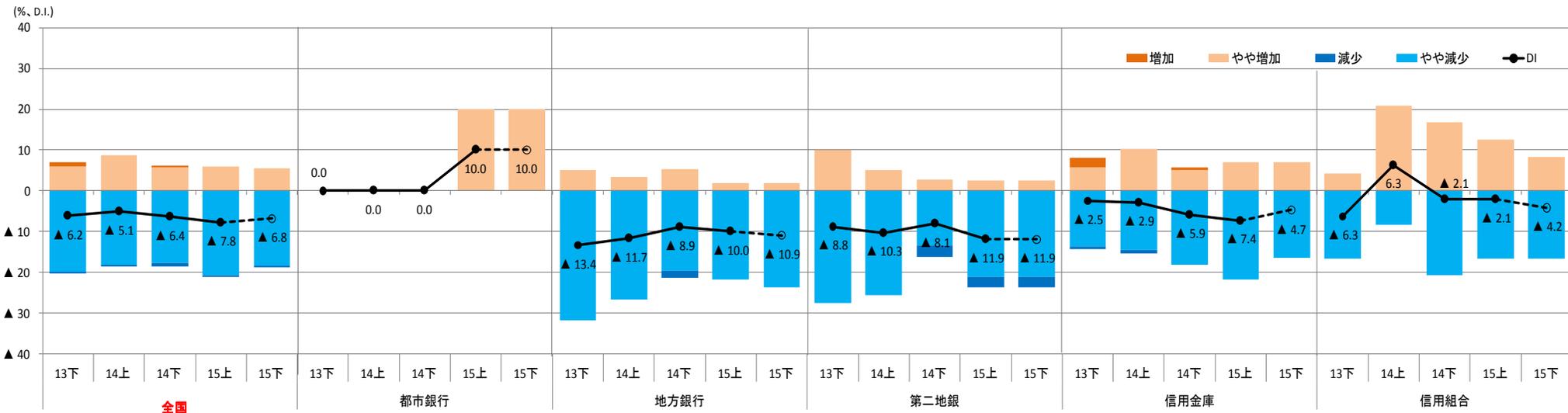
●信用保証付貸出D.I.の推移及び増減理由



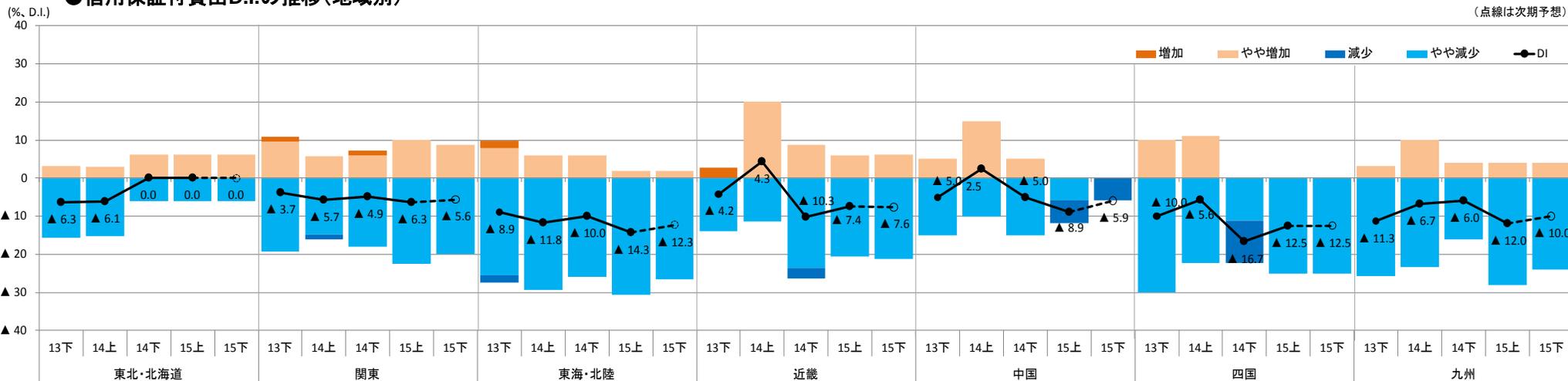
回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。

2. 信用保証付貸出の動向について(つづき)

●信用保証付貸出D.I.の推移(金融機関業態別)



●信用保証付貸出D.I.の推移(地域別)



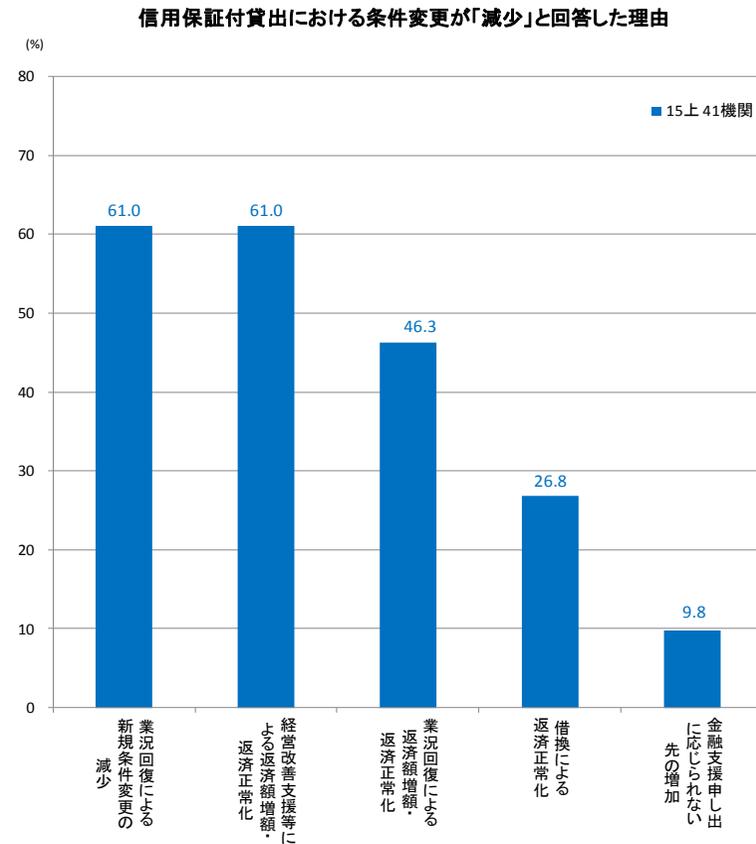
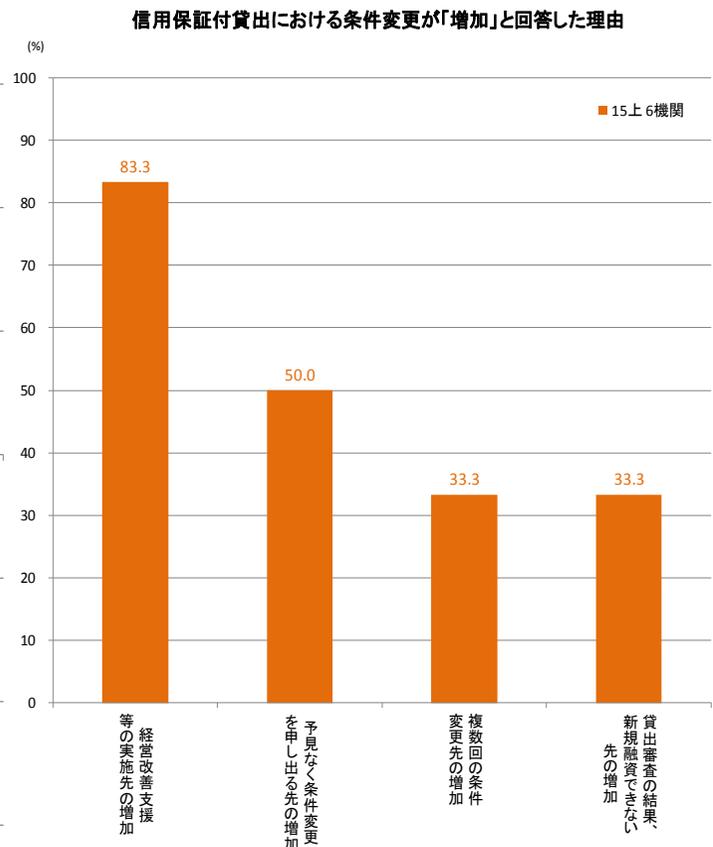
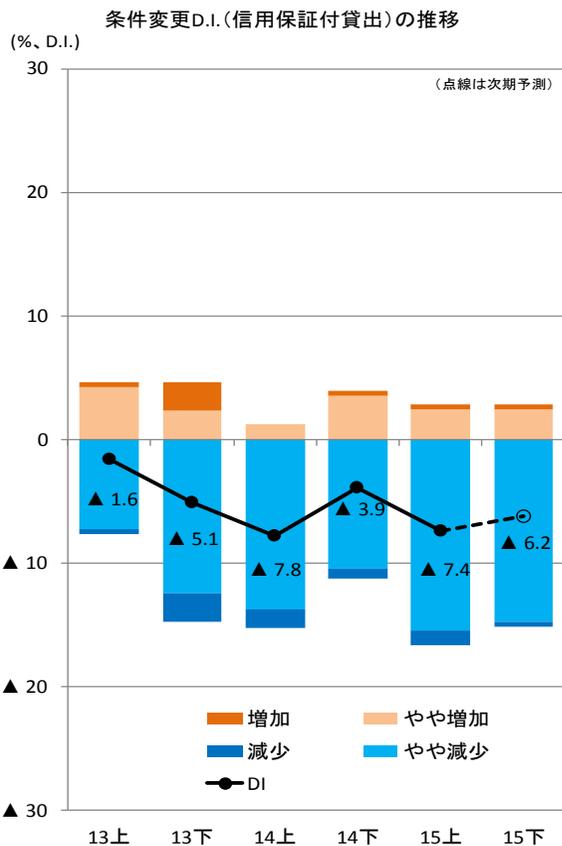
3. 信用保証付貸出における条件変更の動向について

2015年度上期における信用保証付貸出における条件変更が「増加」または「減少」と回答した金融機関に、その理由について尋ねた。

【増加理由】・「経営改善支援等の実施先の増加」が最多(回答機関数6機関のうち、5機関が回答)。

【減少理由】・「業況回復による新規条件変更の減少」及び「経営改善支援等による返済額増額・返済正常化」が最多。

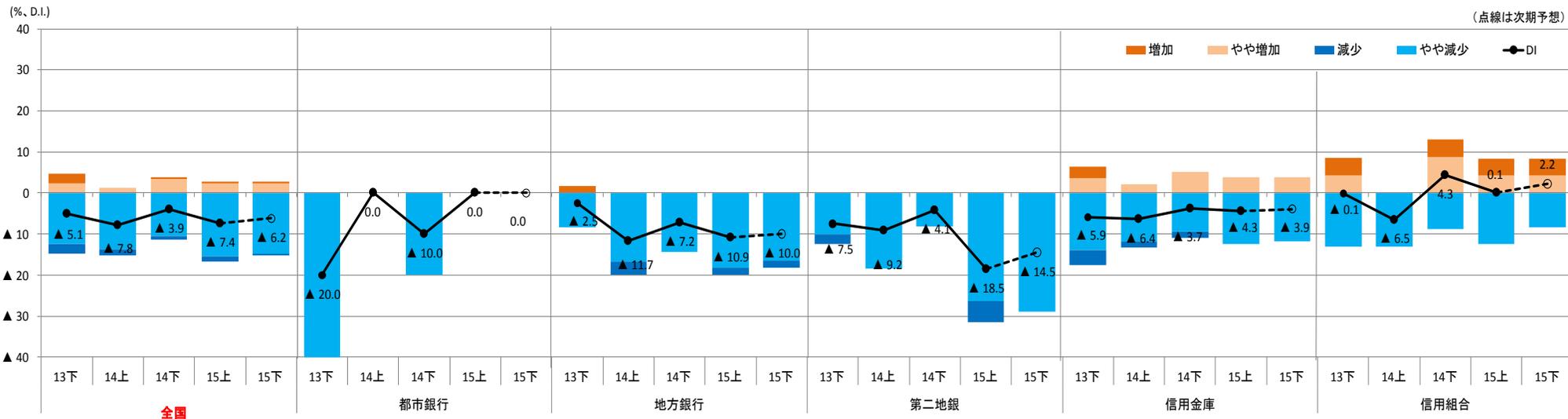
●条件変更(信用保証付貸出)D.I.の推移及び増減理由



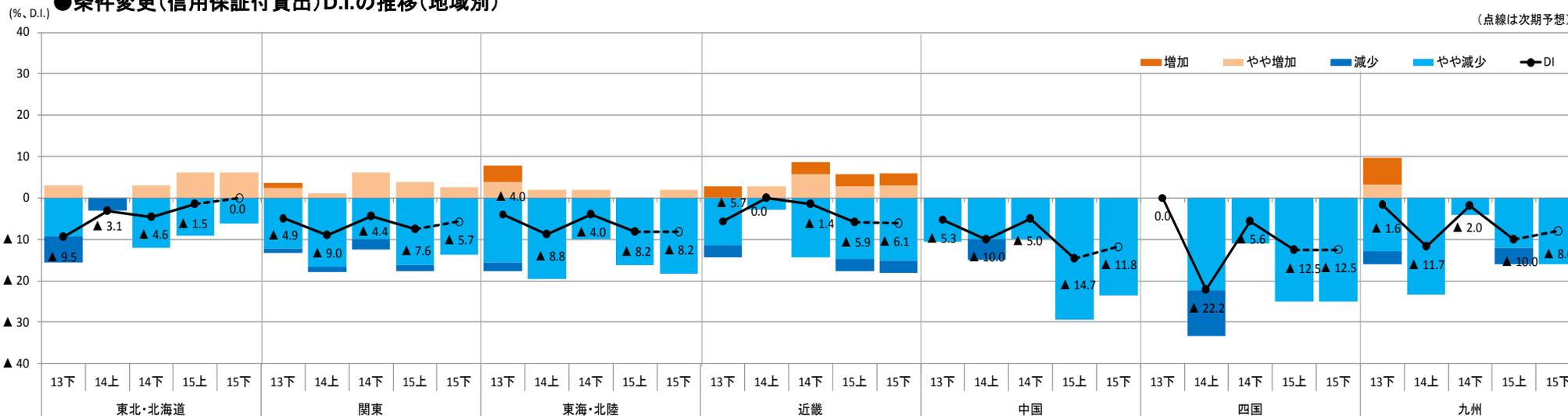
回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。

3.信用保証付貸出における条件変更の動向について(つづき)

●条件変更(信用保証付貸出)D.I.の推移(金融機関業態別)



●条件変更(信用保証付貸出)D.I.の推移(地域別)



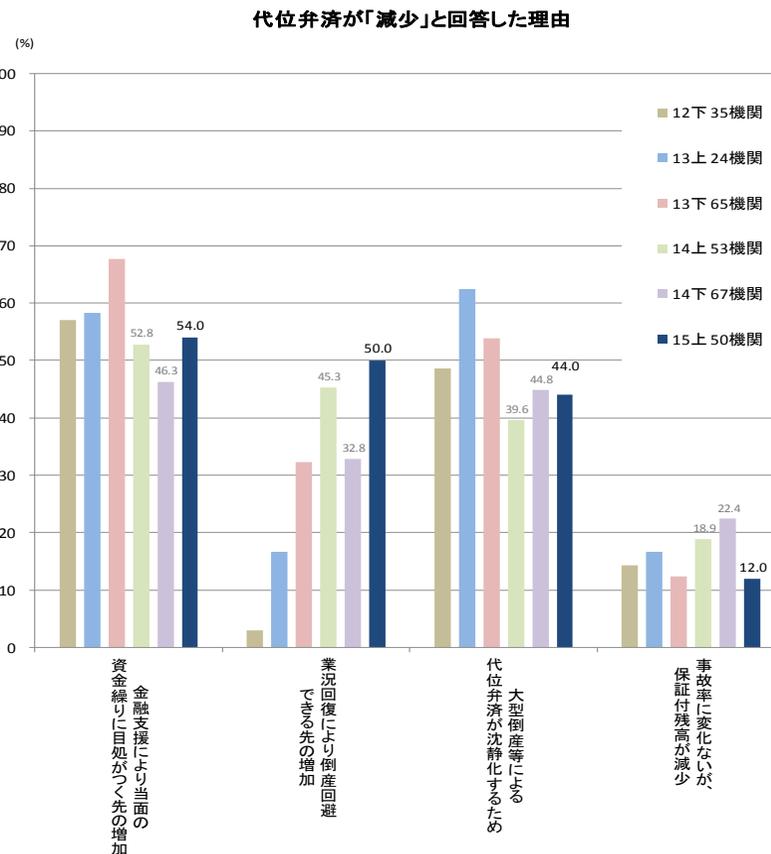
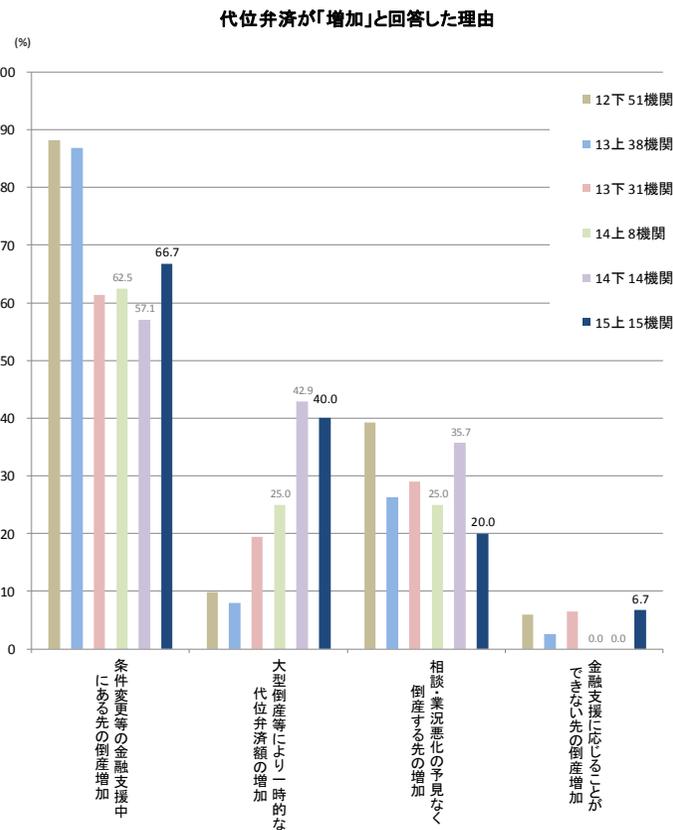
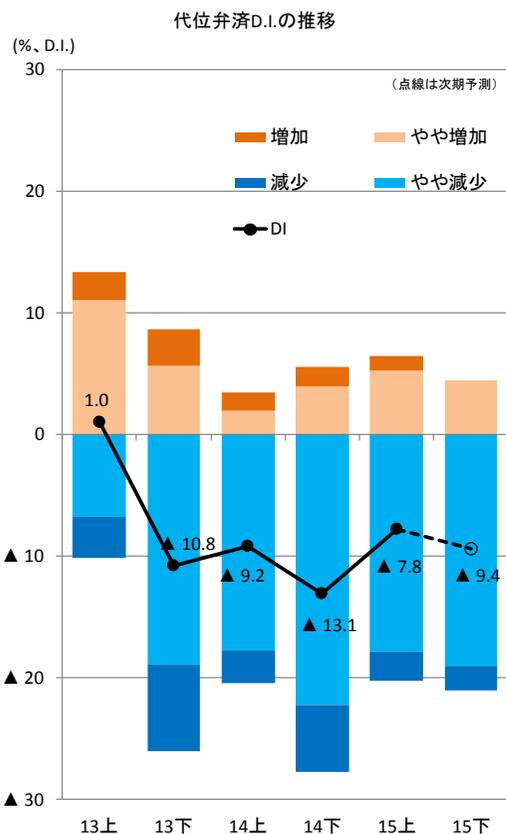
4. 金融機関から信用保証協会への代位弁済請求の動向について

2015年度上期における金融機関から信用保証協会への代位弁済請求が「増加」または「減少」と回答した金融機関に、その理由について尋ねた。

【増加理由】 ・「条件変更等の金融支援中にある先の倒産増加」が最多(回答機関数15機関のうち、10機関が回答)。

【減少理由】 ・「金融支援により当面の資金繰りに目処がつく先の増加」が最多。次いで「業況回復による倒産回避できる先の増加」が続いており、前期に比べて大幅に増加している。

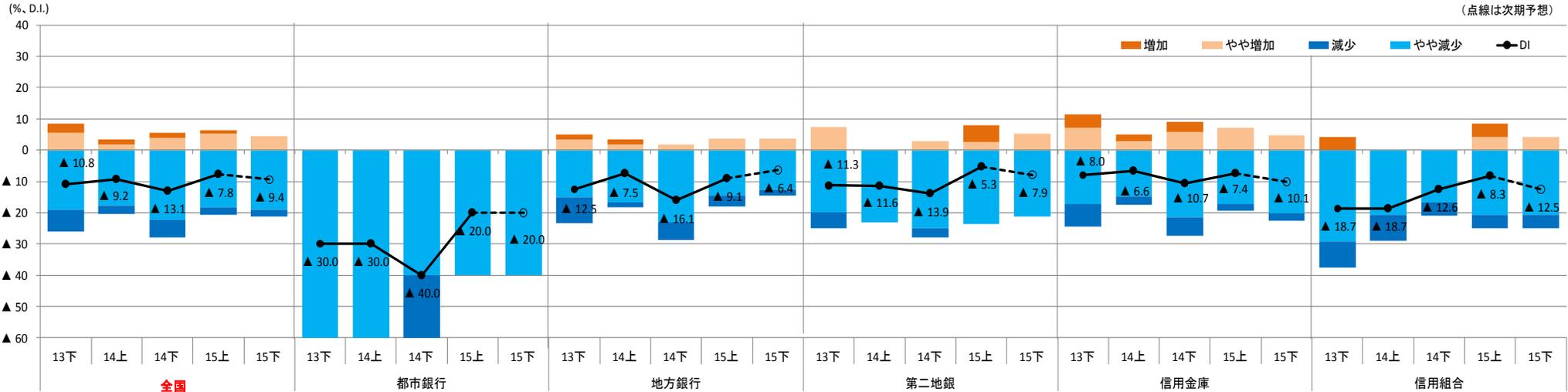
●代位弁済D.I.の推移及び増減理由



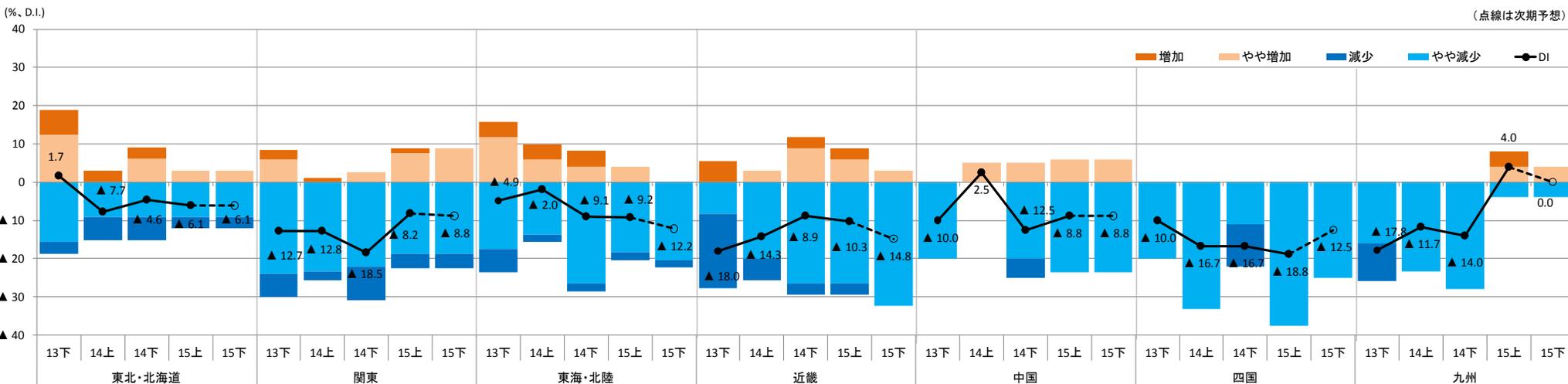
回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。

4. 金融機関から信用保証協会への代位弁済請求の動向について(つづき)

●代位弁済D.I.の推移(金融機関業態別)

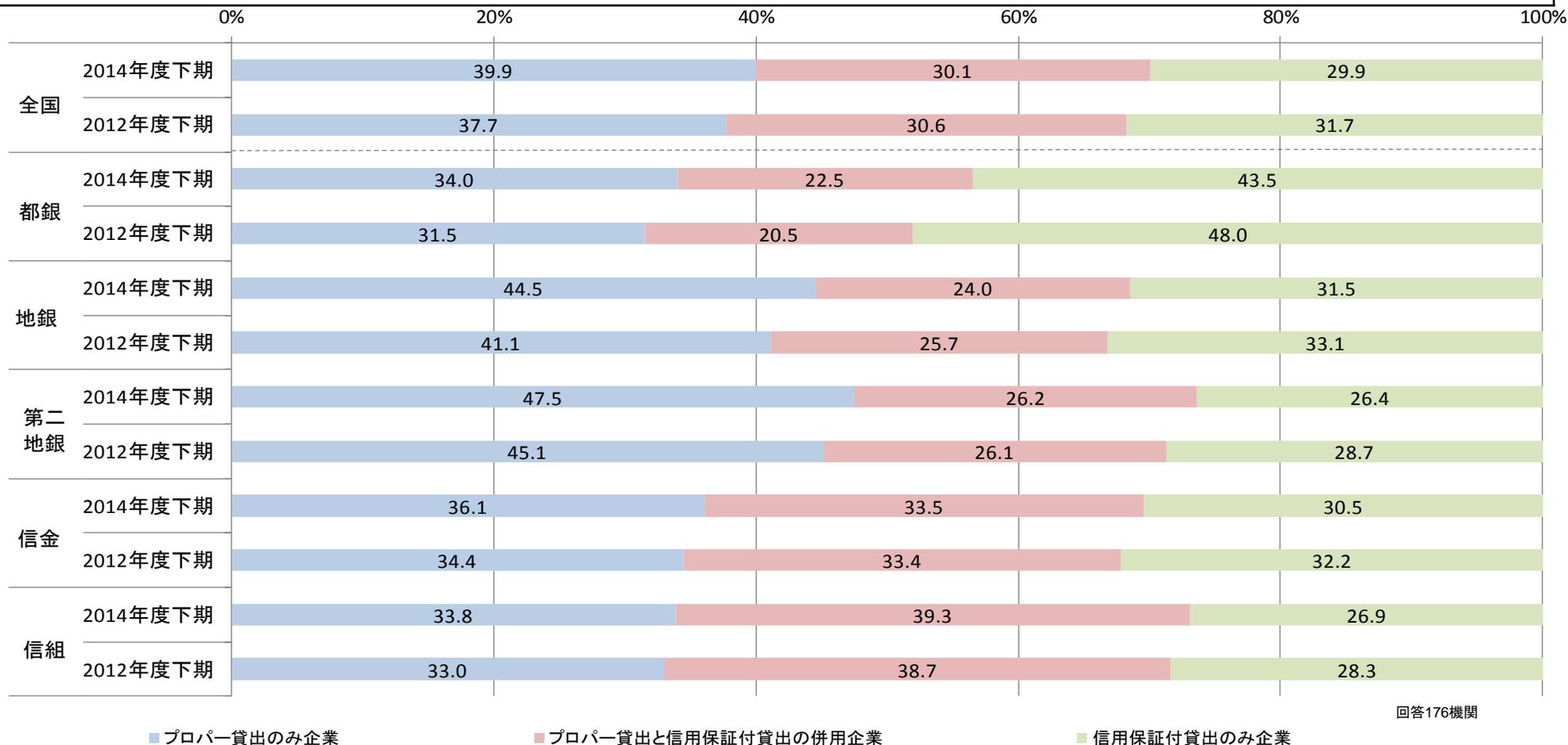


●代位弁済D.I.の推移(地域別)

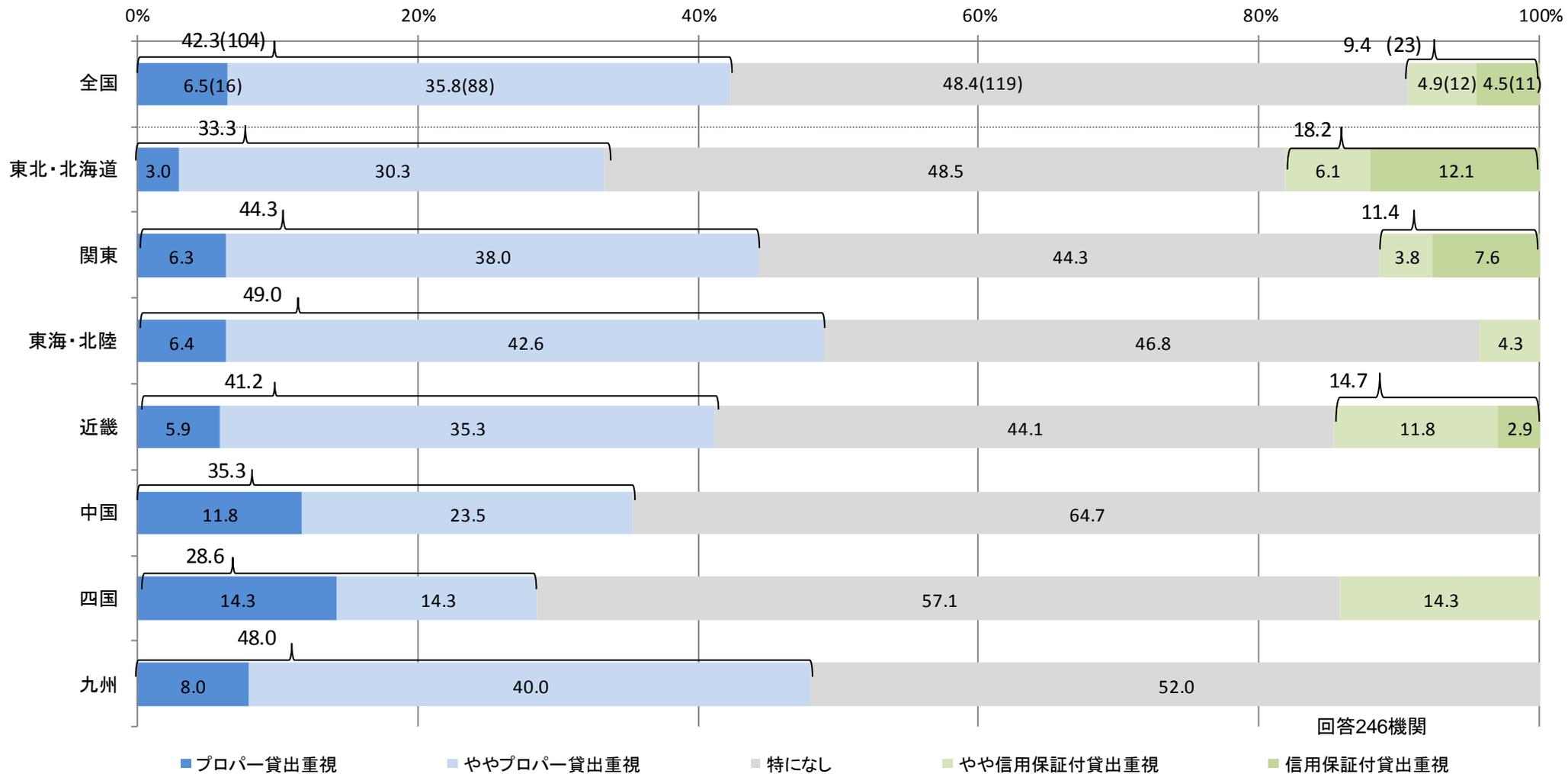


中小企業向け貸出の取引属性(2012年度下期末との比較・金融機関業態別企業構成比)

- ・2014年度末と2012年度末を比較すると、全ての金融機関業態でプロパー貸出のみの取引先が増加している。
- ・都市銀行や地方銀行では、プロパー貸出と信用保証付貸出を併用している取引先の構成比は低く、プロパー貸出のみの取引先又は信用保証付貸出のみの取引先の構成比が高くなっている。一方で信用金庫や信用組合は、他業態に比べてプロパー貸出と信用保証付貸出を併用している取引先の構成比が高くなっている。

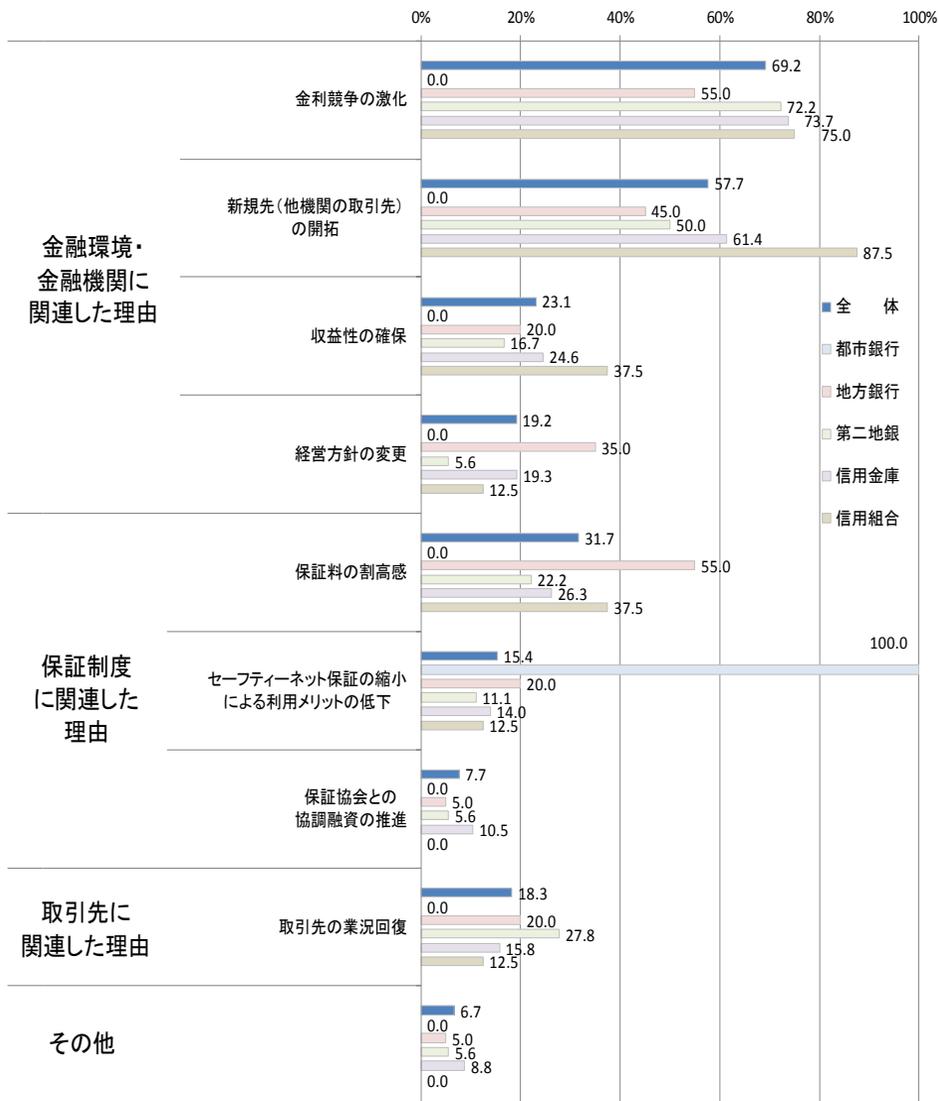


回答176機関



プロパー貸出を重視する理由(金融機関業態別)

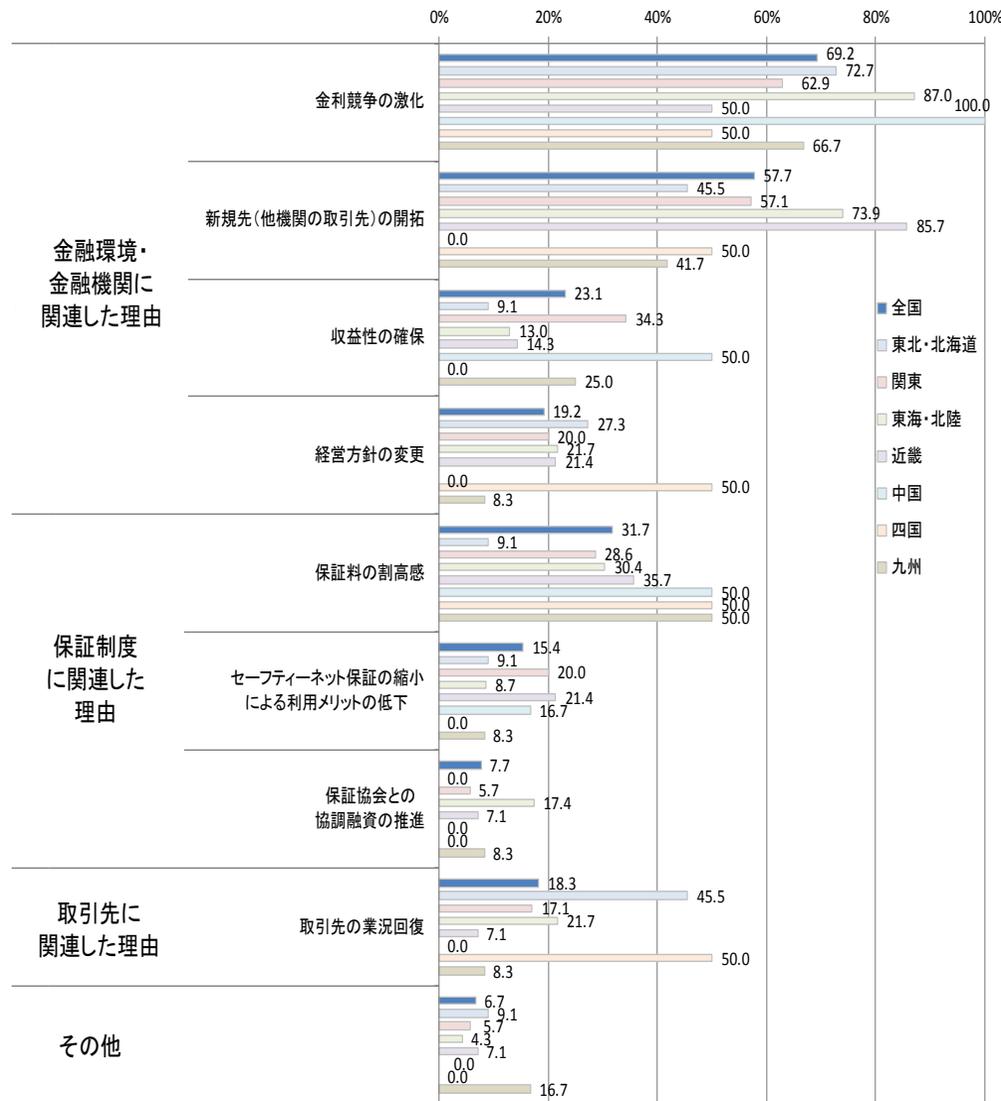
(当該回答は、金融機関の貸出スタンスについて、プロパー貸出を「重視」及び「やや重視」と回答した金融機関を対象)



回答104機関

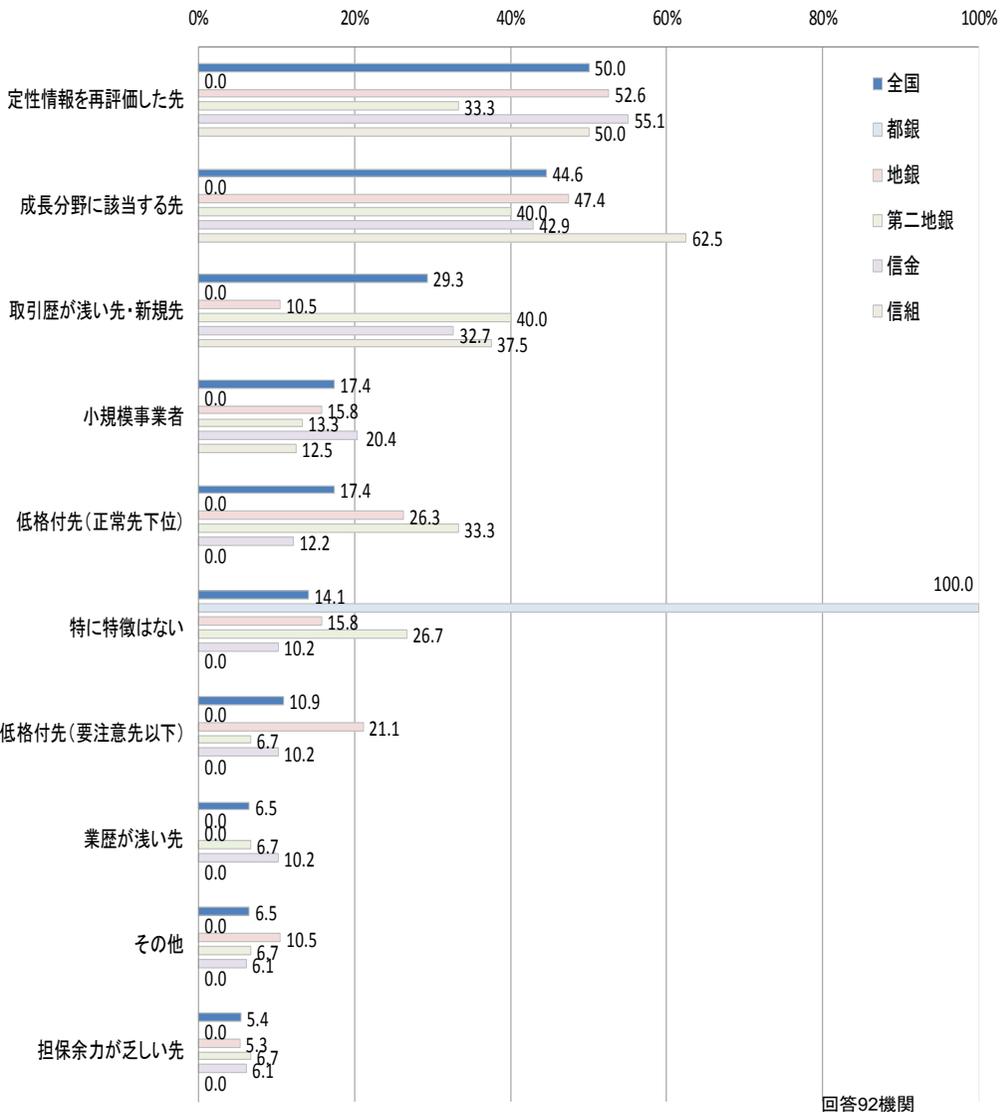
プロパー貸出を重視する理由(地域別)

(当該回答は、金融機関の貸出スタンスについて、プロパー貸出を「重視」及び「やや重視」と回答した金融機関を対象)

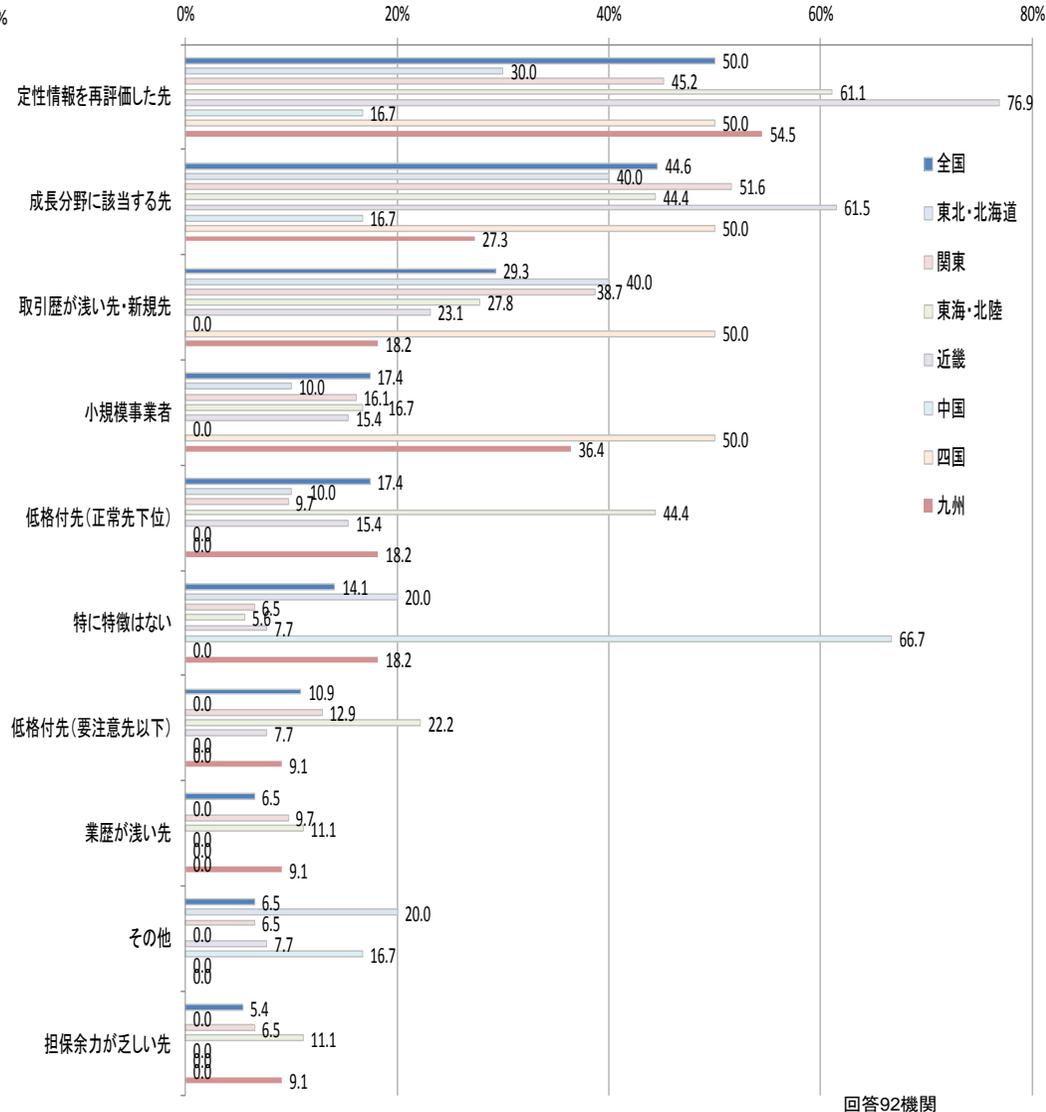


回答104機関

プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴(金融機関業態別)



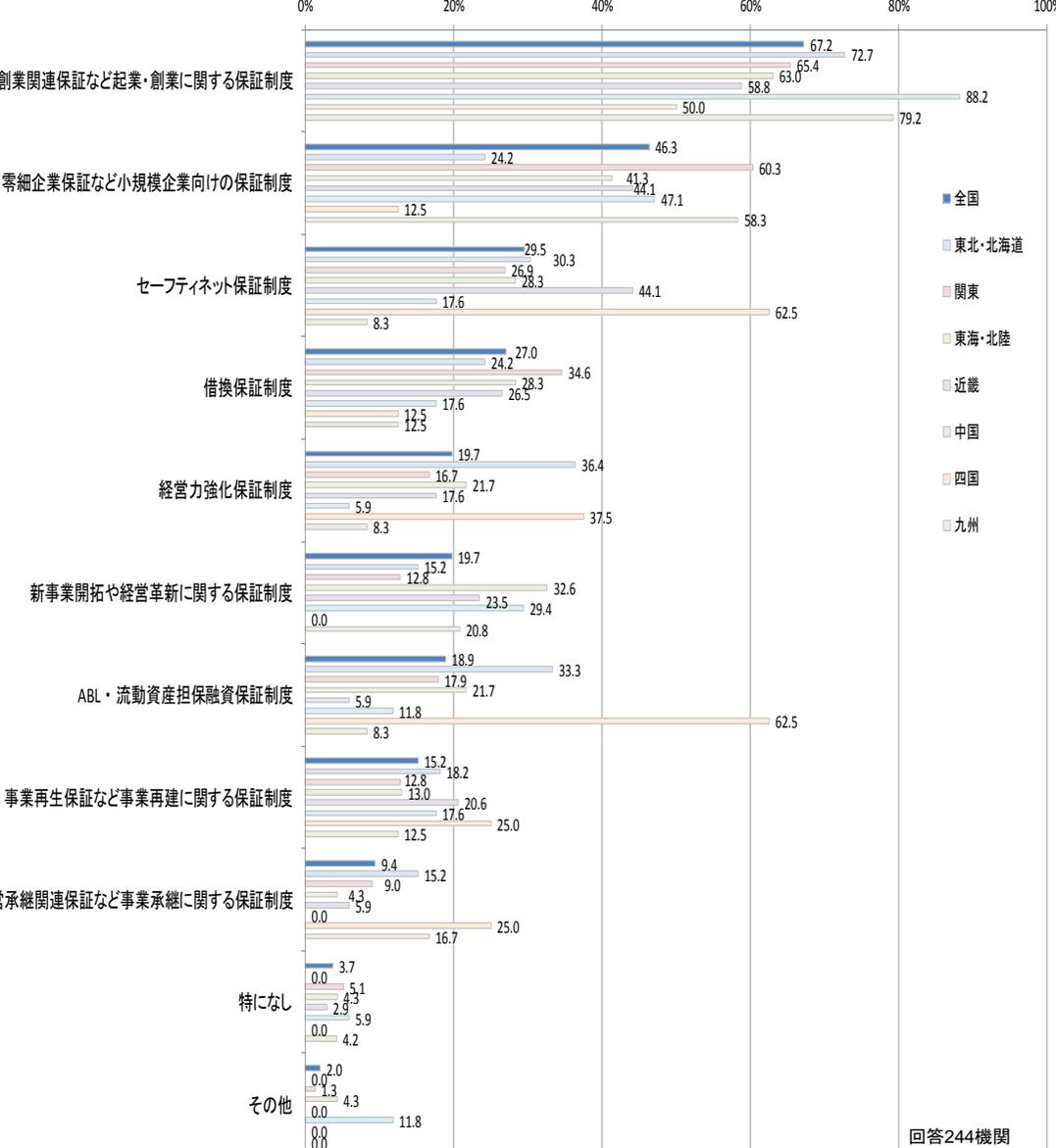
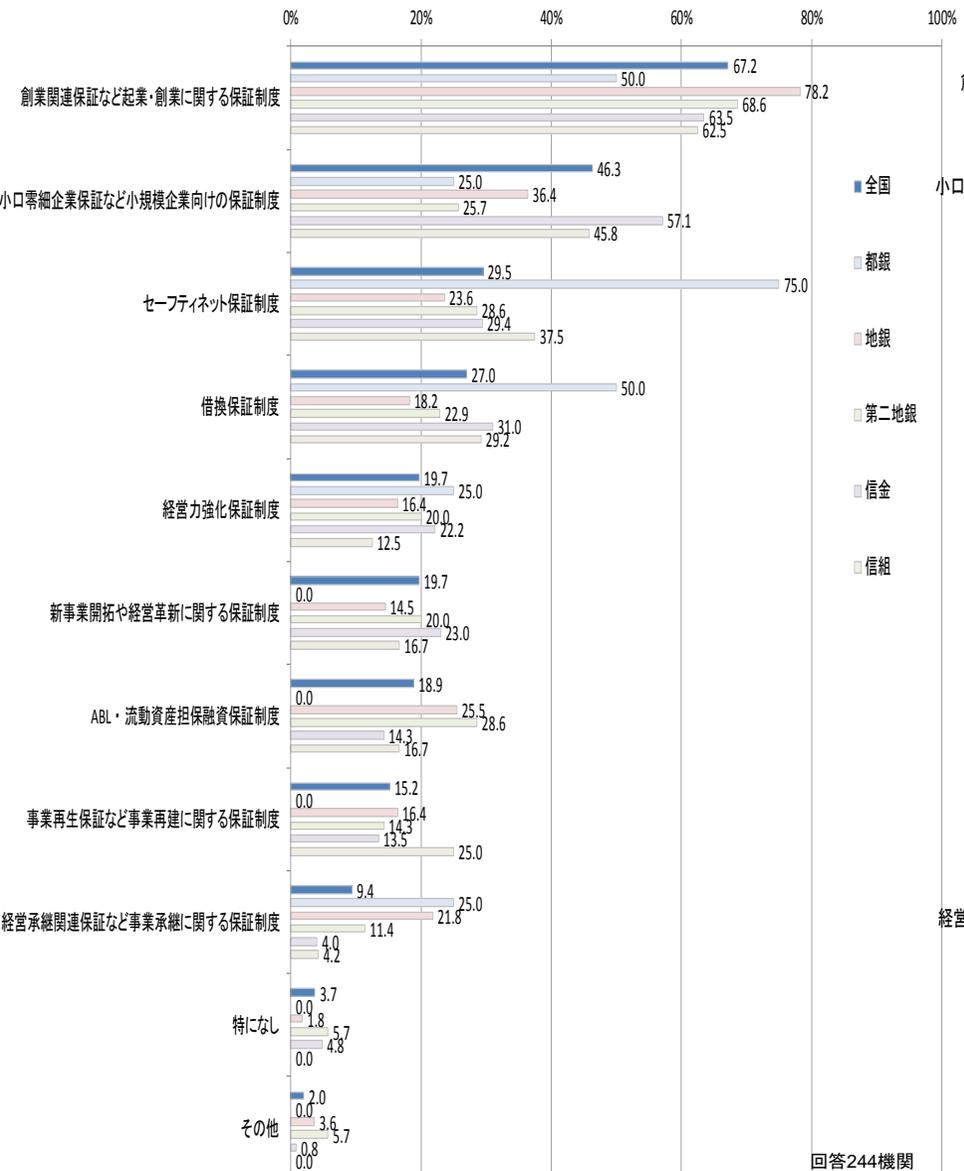
プロパー貸出を重視するようになった貸出先の特徴(地域別)



回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。複数回答のため、合計100%を超える。

今後、積極的に利用を見込んでいる信用保証制度(金融機関業態別)

今後、積極的に利用を見込んでいる信用保証制度(地域別)



回答率(%)は、「当該項目の回答数」を「回答機関数」で除して算出。複数回答のため、合計100%を超える。